

大名細川家 700 年の歴史と出会う

Experience the 700 Year History of the Hosokawa Daimyo Family

---

# 永青文庫

## 令和 4 (2022) 年度 展覧会計画

---



国宝「時雨螺鈿鞍」 鎌倉～南北朝時代（14世紀）永青文庫蔵

- ※ 新型コロナウイルス感染症の状況により、展覧会の内容・会期等が変更となる場合がございます。
- ※ ご来館にあたって事前予約は必要ありませんが、混雑時はお待ちいただく場合がございます。
- ※ 入館方法は変更となる場合がございます。

令和3年度春季展

# 戦国最強の家老

## —細川家を支えた重臣松井家とその至宝—

会 期 = 2022年3月12日(土)～5月8日(日)

休 館 日 = 毎週月曜日(ただし3/21は開館し、3/22は休館)

開館時間 = 10:00～16:30(入館は16:00まで)

主 催 = 永青文庫

特別協力(予定) = 一般財団法人松井文庫、八代市立博物館未来の森ミュージアム、  
熊本県立美術館、熊本大学附属図書館、熊本大学永青文庫研究センター

細川家は初代・<sup>ふじたか</sup>藤孝が信長に仕えて以来、江戸時代の終焉まで国持大名として存続しました。織田・豊臣・徳川と政権が移行する過程で滅亡した大名家が多いなか、このように長きにわたって存続できた背景のひとつには、細川家筆頭家老・松井家の活躍がありました。

松井家初代・<sup>やすゆき</sup>康之(1550～1612)は武略にすぐれ、数々の戦功を細川家にもたらしめました。とりわけ秀吉からその働きが評価され、直参大名取り立ての申し出を受けるも、細川家への忠義から固辞しています。二代・<sup>おきなが</sup>興長(1582～1661)は主君に対しても忌憚のない意見を述べ、50年にわたって細川家を支え続けました。そうした細川家にとって最も重要な家老であった松井家の文物は、今も熊本県<sup>やつしろ</sup>八代市の松井文庫に継承されています。

松井文庫には、康之と興長が深い関係を築いた千利休や古田織部、剣豪・宮本武蔵ゆかりの史料や作品も現存しています。利休が秀吉の勘気に触れて京を追われたとき、見送りに来てくれた細川家二代・<sup>ただおき</sup>忠興と織部への感謝の気持ちを康之に言づけた手紙や、興長の仲介により熊本藩細川家に客分として招かれた武蔵の水墨画など、貴重な品を多く含みます。

本展は、永青文庫と松井文庫の伝来品により、主君と家老の関係を東京で初紹介するものです。利休、武蔵らの名品を一堂に展覧するとともに、康之と興長の活躍ぶりを史料から辿り、最強の家老たるゆえんを探ります。



左より

- 1、「松井興長像」 霊叟玄承賛  
寛文3年(1663) 松井文庫蔵
- 2、「銀箔押尖笠形兜」  
桃山時代(16世紀) 松井文庫蔵
- 3、◎重要文化財 宮本武蔵「鶴図」  
江戸時代(17世紀)  
永青文庫蔵(熊本県立美術館寄託)
- 4、○熊本県指定重要文化財  
「千利休書状」松井康之宛  
天正19年(1591)2月14日  
松井文庫蔵(八代市立博物館寄託)

令和4年度初夏展

## 仙厓ワールド

### —また来て笑って！仙厓さんの Zen Zen 禅画—

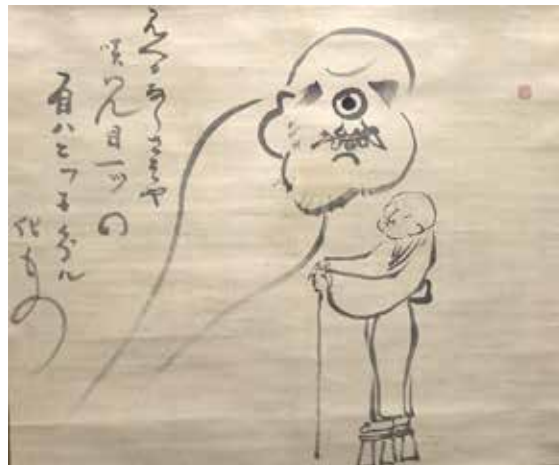
会 期 = 2022年5月21日(土)～7月18日(月・祝)

休 館 日 = 毎週月曜日(ただし7/18は開館)

開館時間 = 10:00～16:30(入館は16:00まで)

江戸時代後期の禅僧・仙厓義梵<sup>せんがいぎぼん</sup>(1750～1837)は、ユーモアに富んだ書画を通して禅の教えを広く伝えたことで知られます。永青文庫には、設立者・細川護立<sup>もりたつ</sup>(1883～1970)が集めた仙厓の作品100点以上が所蔵されており、江戸時代中期の禅僧・白隠慧鶴<sup>はくいんえかく</sup>の書画とともに当館の禅画コレクションの重要な柱となっています。その全容は、2016年の秋冬展「仙厓ワールド—来て見て笑って！仙厓さんのゆるカワ絵画—」において初めて公開され、話題を呼びました。

第2弾となる本展では、選りすぐりの仙厓作品に加え、兄弟弟子にあたる誠拙周楞<sup>せいせつしゅうちよ</sup>など、仙厓周辺の禅僧による書画をあわせて展示し、これまでほとんど取り上げる機会がなかった知られざる禅画コレクションの一端を紹介します。さらに、禅画への理解と親しみを深めるため、画題ごとに展示するコーナーを設けるほか、作品の人気投票も開催。仙厓が人々にやさしく説いた禅の世界をお楽しみください。



上段左より

5、仙厓義梵「龍虎図」

江戸時代後期(19世紀)

6、仙厓義梵「虎図」

江戸時代後期(19世紀)

7、仙厓義梵「野雪隠図」

江戸時代後期(19世紀)

8、誠拙周楞「一つ目小僧図」

江戸時代中期～後期(18～19世紀)

すべて永青文庫蔵

令和4年度夏季展

## こどもと楽しむ永青文庫

会 期 = 2022年7月30日(土)～9月25日(日)

休 館 日 = 毎週月曜日(ただし9/19は開館し、9/20は休館)

開館時間 = 10:00～16:30(入館は16:00まで)

今から300年以上昔の江戸時代、肥後熊本54万石の藩主・細川家のこどもたちは、どのような暮らしをしていたのでしょうか？

細川家から歴代の美術品などを受け継いだ永青文庫には、こどもの肖像画や書、こども用の小さな着物や能装束、写真など、こどもに関する様々な資料が残されています。それらを初めてまとまった形で紹介するほか、大名家の暮らしぶりなども分かりやすく解説します。

こどもにも分かりやすい小冊子を発行し、夏休みの宿題にも役立つ親子で楽しめる展覧会です。



左より

9、狩野伊圭弘信「考姫像」江戸時代(19世紀)

10、細川齊茲「考姫像」江戸時代(19世紀)

11、細川齊茲「融姫像」江戸時代(19世紀)

すべて永青文庫蔵

令和4年度秋季展

## 永青文庫漆芸コレクション かがやきの名品

会 期 = 2022年10月8日(土)～12月11日(日)

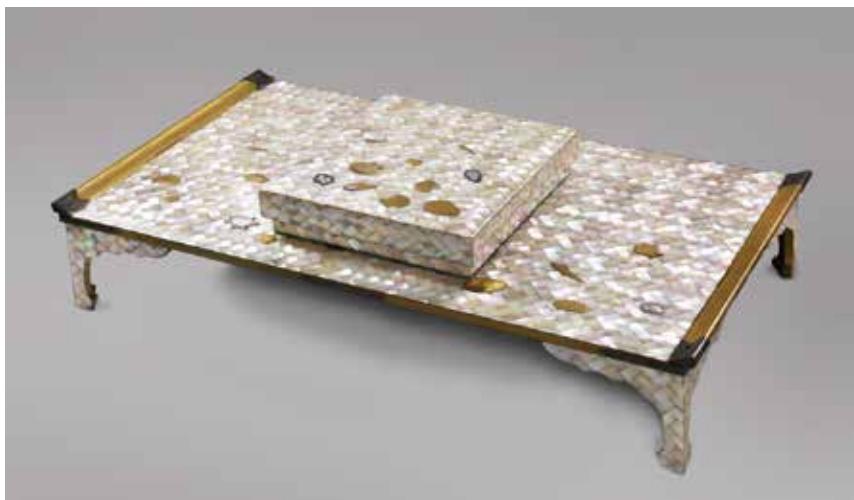
休 館 日 = 毎週月曜日(ただし10/10は開館し、10/11は休館)

開館時間 = 10:00～16:30(入館は16:00まで)

古くから人々の生活に馴染み深い漆工芸。中国では貝殻を嵌め込む「螺鈿<sup>らでん</sup>」、漆を塗り重ねて彫漆する「堆朱<sup>ついで</sup>」、色漆と線彫りで文様を表す「存星<sup>ぞんせい</sup>」といった技法が生み出され、日本では金銀粉や色粉を蒔きつけた「蒔絵」が独自に発展を遂げるなど、多種多様な作品が制作されました。

永青文庫の膨大な漆芸コレクションは、大名調度、馬具、楽器、茶道具など様々な種類が含まれます。さらに、日本だけでなく、中国、朝鮮半島、琉球、東南アジアで制作された多彩な作品がみられるのも特徴のひとつです。本展は、永青文庫では実に16年ぶりの展示となる「時雨螺鈿鞍<sup>しぐれらでんくら</sup>」(国宝)をはじめ、選りすぐりの漆工作品を最新の調査結果とともに紹介します。

また、当館にとって初めての試みとなる「文化財修理プロジェクト」による修理作品を、修理後いち早く公開します。第1弾の横山大観・下村観山・竹内栖鳳<sup>かんのんえんかく</sup>「観音猿鶴」は、当時の日本画壇を代表する3人の画家が手掛けた貴重な合作です。



上段左より

- 12、● 国宝「時雨螺鈿鞍」  
鎌倉～南北朝時代(14世紀)
  - 13、「楼閣人物螺鈿食籠」  
中国 南宋～元時代(13世紀)
  - 14、「綱代螺鈿貝蒔絵文台・硯箱」  
江戸時代(18～19世紀)
- すべて永青文庫蔵

令和4年度冬季展

## 揃い踏み 細川の名刀たち—永青文庫の国宝登場—

会 期 = 2023年1月14日(土)～5月7日(日)

休 館 日 = 毎週月曜日

開館時間 = 10:00～16:30(入館は16:00まで)

永青文庫の設立者・細川<sup>もりたつ</sup>護立(1883～1970)は、禅僧の書画や近代絵画、東洋美術のみならず、稀代の刀剣コレクターとしても知られます。護立が刀の世界に本格的に足を踏み入れたのは、学習院中等学科在学中、肋膜炎にかかり休学していた十代の頃。細川侯爵家に<sup>おかたながかり</sup>「御刀掛」として出入りしていた肥後金工師の末裔・<sup>にしがきしろさく</sup>西垣四郎作や、刀剣愛好家でもあった細川家の家政所職員らとともに開いた研究会で、刀剣の目利きを学び、審美眼を磨いていきました。

本展では国宝全4口(揃って展示するのは8年ぶり)をはじめ、「刀 銘 濃州関住兼定作(歌仙兼定)」など護立の眼によって集められた名刀を、蒐集エピソードとともに展覧します。あわせて、肥後金工の鐔など精緻な刀装具の世界もご紹介します。



上段左より

15、● 国宝「太刀 銘 豊後国行平作」平安～鎌倉時代(12～13世紀)

16、「刀 銘 濃州関住兼定作(歌仙兼定)」室町時代(16世紀)

17、○ 重要美術品 林又七「桜九曜紋透鐔 銘 又七」江戸時代(17世紀)

18、刀剣を手入れする細川護立

すべて永青文庫蔵

貴社名：

媒体名：

ご担当者名：

ご所属：

TEL：

FAX：

ご住所：

E-mail：

掲載予定日： 年 月 日

掲載概要：(コーナー名、画像の掲載サイズなど)

- 読者プレゼント用チケット (5組10名様) ご希望の場合はチェックを付けてください。  
※各展覧会の閉幕1ヶ月前までにご紹介頂ける場合に限らせて頂きます。  
※チケットはゲラの確認後に送付いたします。

◆ご希望の写真番号に○を付けてください。

- 1、「松井興長像」 霊叟玄承賛、寛文3年(1663)、松井文庫蔵
- 2、「銀箔押尖笠形兜」 桃山時代(16世紀)、松井文庫蔵
- 3、◎ 重要文化財 宮本武蔵「鵜図」 江戸時代(17世紀)、永青文庫蔵(熊本県立美術館寄託)
- 4、○ 熊本県指定重要文化財「千利休書状」 松井康之宛、天正19年(1591)2月14日、松井文庫蔵(八代市立博物館寄託)
- 5、仙厓義梵「龍虎図」 江戸時代後期(19世紀)、永青文庫蔵
- 6、仙厓義梵「虎図」 江戸時代後期(19世紀)、永青文庫蔵
- 7、仙厓義梵「野雪隠図」 江戸時代後期(19世紀)、永青文庫蔵
- 8、誠拙周楞「一つ目小僧図」 江戸時代中期～後期(18～19世紀)、永青文庫蔵
- 9、狩野伊圭弘信「考姫像」 江戸時代(19世紀)、永青文庫蔵
- 10、細川斉茲「考姫像」 江戸時代(19世紀)、永青文庫蔵
- 11、細川斉茲「融姫像」 江戸時代(19世紀)、永青文庫蔵
- 12、◎ 国宝「時雨螺鈿鞍」 鎌倉～南北朝時代(14世紀)、永青文庫蔵
- 13、「楼閣人物螺鈿食籠」 中国 南宋～元時代(13世紀)、永青文庫蔵
- 14、「綱代螺鈿貝時絵文台・硯箱」 江戸時代(18～19世紀)、永青文庫蔵
- 15、◎ 国宝「太刀 銘 豊後国行平作」 平安～鎌倉時代(12～13世紀)、永青文庫蔵
- 16、「刀 銘 濃州関住兼定作(歌仙兼定)」 室町時代(16世紀)、永青文庫蔵
- 17、○ 重要美術品 林又七「桜九曜紋透鐔 銘 又七」 江戸時代(17世紀)、永青文庫蔵
- 18、刀剣を手入れする細川護立

【広報画像ご使用に際してのお願い】

※画像の使用は、展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。貸与した画像は、使用後速やかに消去願います。  
※展覧会名、会期、会場、作品名称、所蔵者を必ずご掲載ください。  
※掲載誌は1部ご惠贈願います。

【個人情報の取扱いについて】

※ご記入いただきました個人情報は、当館からの展覧会情報のご案内にのみ使用いたします。  
許可なく第三者に個人情報を開示することはございません。